

わたしの 健康とくすり

第164号



今月の内容

- 妊娠と漢方
- 特別用途食品について2
- 結核の治療で飲む薬について

カワラナデシコ（ナデシコ科）

美しい日本の野草です。河原のような明るいところに生えるので、河原撫子の名前がつけました。中国産のセキチク（石竹）をカラナデシコと呼ぶのに対して、日本産なのでヤマトナデシコと呼ぶこともあります。種子や茎葉を利尿薬にしますが、実際にはあまり使われません。そっと野に置いておきたい植物です。

写真・文 指田 豊

発行者 八王子薬剤センター

2009年8月発行

東京都八王子市館町1097 電話042-666-0931

茂木 徹

協 力 八王子薬剤師会



疾患シリーズ

妊娠と漢方

妊娠中の投薬については漢方薬に限らず、添付文書には妊婦に慎重に投与するように「妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦または妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること」とある。この事に関し、妊娠中に行う漢方薬投与は催奇性や胎児毒性について安全性が検証されているが、とくに**妊娠中のかぜ症候群**については、**催奇性の問題から投薬は産婦人科医に委ねられる**場合がある。その他、**漢方治療は妊娠高血圧、妊娠貧血、妊娠悪阻、妊娠浮腫、切迫流早産**などにも応用されている。

漢方医学では、妊娠中の投薬について、漢方医学の原典である2000年前の「**金匱要略**」にすでに妊娠病篇の記載がある。また生薬レベルでは、妊娠に対し安全か否かを**安胎薬、慎用薬、禁忌薬**に分類している。さらに、漢方医学から診た胎児の発育によって生じる母体の**変化と養生**には、**貧血、精神を穏やかにし、浮腫、栄養に注意**することを挙げ、そして**妊娠中には汗をかき過ぎない、過度の瀉下、利尿を禁じている**。かつての厚生省は**大黃、芒硝、牛膝、紅花、桃仁、牡丹皮、附子**を含む漢方薬の使用は慎重に行うよう注意を促している。

1) **妊娠初期の注意**：不妊症に引続き妊娠の場合、とくに**馱瘀血劑（桂枝茯苓丸、桃核承氣湯、防風通聖散**など）を常用していた場合、妊娠と判明した時点で中止するか、安胎薬の**当帰芍薬散**に替える。

2) **安胎**：臨床的には、**当帰芍薬散、四物湯**や**芎歸膠艾湯**を用いる。基礎実験では、**当帰芍薬散**には安胎効果の他、妊娠高血圧や貧血などの合併症を予防する報告がある。不育症の場合は、妊娠中も免疫学的検査をしながら、**柴苓湯、当帰芍薬散**や**薬甘草湯**を用いる。

3) **腹緊・腹痛・子宮筋の緊張**：「**金匱要略**」の妊娠病篇に、「**婦人が懐妊し、腹中疝痛するは当帰芍薬散が主る**」とあり、**当帰芍薬散**を用いる。

4) **妊娠悪阻**：上腹部の水滯や胃虚によって吐気を起すので、多くの場合は**小半夏加茯苓湯、半夏厚朴湯**や**六君子湯**などを用いる。水様性嘔吐の水逆には**五苓散**が有効。なお、**妊娠悪阻の発症時期は器官形成期に当るので、漢方薬といえども慎重であるべきである**。

5) **かぜ症候群**：妊娠中の母体は陰血・虚証であるので、発汗作用のある麻黄剤を含む葛根湯を用いず、**桂枝湯**や**香蘇散**を用いる。妊娠咳は血虚で、肺が乾き、乾性の咳嗽になるので、滋潤作用のある**麦門冬湯**を用いる。



ちょっとお耳を……

特別用途食品2

今回は特別用途食品にはどのようなものがあるのかをご紹介します。

○許可基準型病者用食品

低たんぱく質食品は、腎臓が悪くなった人などが医師の指示のもと利用するもので、通常のご飯よりもたんぱくを少なくしたご飯などがあります。

アレルギー除去食品は、おもに食物アレルギーの人が医師の指示のもと利用するもので、特定の食品アレルギーの原因物質である特定のアレルギーを除去したものです。ミルクアレルギーの赤ちゃん用の粉ミルクなどがあります。

無乳糖食品は、乳糖不耐症、ガラクトース血症の場合に医師の指示のもと利用するもので、食品中の乳糖又はガラクトースを除去したものです。普通のミルクでお腹の調子が悪くなる赤ちゃん用の粉ミルクなどがあります。

総合栄養食品（濃厚流動食）は、疾患などにより経口摂取が不十分なものの食事の代替品として、液状又は半固形状で適度な流動性を有しているものです。

○個別評価型病者用食品

個別評価型病者用食品は、特定の疾病のための食事療法の目的を達成し、食生活の改善に効果が期待できるものです。軽度から中等度の脱水状態の方の水・電解質を補給・維持するための経口補水液などがあります。

○妊産婦、授乳婦用粉乳

妊産婦、授乳婦用粉乳は、妊娠・授乳期に不足しがちな栄養を補うためのものです。妊娠期に不足しがちなカルシウム、鉄などを多く含む粉ミルクなどがあります。

○乳幼児用調整粉乳

乳幼児用調整粉乳は、母乳の代替食品として使用できるもので、乳児用の粉ミルクや、乳幼児用のフォローアップミルクなどがあります。



○えん下困難者用食品

えん下困難者用食品は、誤えんを防ぐことを目的とした食品です。米粒がつぶれやすく、適度なとろみをつけ、のどに残りにくいようにしたおかゆなどがあります。

これら食品を使う際は専門家の指示の下利用するのが効果的ですので、医師、栄養士などに相談して利用しましょう。



おくすりQ&A

結核の治療で飲む薬について教えてください。

A. 一時は昔の病気だと言われた結核ですが、最近の日本では再び増え始め、他国より罹患率が高くなっています。

感染しただけですぐに発病しない場合が多いのですが、加齢、過労、栄養不良、他の病気による体力低下などによって免疫力が低下すると発病します。体内で結核菌が増殖して症状が進むと、肺の組織が破壊されて呼吸困難になる、他の臓器の機能が冒されるなどして生命の危機を招く恐ろしい病気です。

しかし現在では、結核はほとんどの場合が薬を使用することで治せるようになりました。

最もよく使われている薬は次の5つです。

①イソニアジド	②リファンピシン	③エタンブトール	④ストレプトマイシン (注射剤)	⑤ピラジナミド
				

代表的な使い方は、

★①+②+③ (または④) +⑤の4つを2ヶ月→①+② (+③) の2つ (3つ) を4ヶ月の計6ヶ月間続ける、というものです。副作用などで⑤が使えない場合は、★①+②+③ (または④) を6ヶ月→①+② (+③) を3ヶ月の計9ヶ月間続けるという方法もあります (この他に、レボフロキサシンなどの抗生物質が使われることもあります)。

最低でも3種類の薬を使うことになっています。なぜこんなに多くの薬を使うのかというと、**薬にも負けない結核菌 (耐性菌) ができてしまうのを防ぐため**です。

これらの薬を1日1回、決められた量を守ってしっかり飲みます。

注意点としては、**薬を決められた通りに飲まなければならない**という事が挙げられます。

何種類もの薬を毎日必ず、長期間飲まないと、結核菌はしぶとく生き残ってしまいます。これがなかなか難しく、途中で治療をやめてしまったり、また完全に治ったようでも再発してしまったりという事が問題になっています。

そこで、患者さんがしっかり薬を飲むことができるように行われているのが**DOTS (直接服薬確認治療)**です。地域の保健所、病院・薬局等の医療機関で連携を取って、医師や薬剤師の目の前で薬を飲んでもらったり、薬を飲んだ証拠として、飲み終わった空の袋を保健所に提出してもらいます。

執筆薬剤師 武田 真理子